

平成29年度第3回秦野市行財政調査会（行財政経営専門部会）

1 開催日時	平成29年8月9日（水）午前9時55分から12時10分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階 3A会議室	
3 出席者	委 員	斎藤部会長、茅野部会長職務代理者、坂野部会長職務代理者、足立委員、横溝委員
	関係課等職員	企画課長、同課長代理、同課担当1名 財政課長
	事務局	政策部長、行政経営課長、同課長代理、同課担当3名
4 議題	(1) 本年度の進め方について 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成28年度評価について (2) その他	
5 配付資料	資料1 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）平成28年度（2016年度）評価報告書（案） 資料2 平成28年度地方創生関連交付金の効果検証	

6 会議概要

(1) 開会

【事務局】 一当日資料の確認一

【部会長】 前回の会議で議論していただいた内容と、別途に各委員からいただいた御意見を踏まえて担当課で評価報告書案を作成しております。

本日議論していただく評価報告書については、本日の会議で内容を取りまとめ、後日、部会として市長への報告が予定されていますので、御承知おきください。

それでは、本日の次第に従い、進めていきたいと思います。議事（1）の資料の説明をお願いいたします。

【企画課】 一資料1に基づき前回との変更点について概要説明一

【部会長】 全般的な説明をいただきましたが、御質問等あればお願いいたします。

【委員】 市民が見たときに、こういう報告書の隅々まで見ることは難しいと思います。やはり、自分が興味のある事業を抜き出して見ますので、自己評価の結果に一つ一つコメントが入っているのは、大変分かりやすいと思います。

【委員】 私も同じ印象です。数値目標は達成しているが、自己評価を過小評価している例として、No.1の事業では、現状はうまく進んでいるが、まだ課題があるから自己評価をBとしているようです。評価とは現状の評価なのか将来を見越した評価なのか、あるいは両方混ざっているのか、今後その辺りを整理する必要があると思われます。

【委員】 私もそう思います。評価は評価でAとしておいて、ほかに懸念事項があるというコメントがあればよいと思います。

【委員】 この指標ではAだが、事業そのものが進んでいないという場合には、指標の見直しを行うなどの整理をした方が良いと思います。

【企画課】 その辺りにつきましては、39ページの総括の部分の（5）で整理しており、総括的な課題として記載しております。

No.1の事業の自己評価の理由欄で、新たな候補地の指定に向けた調査・研究があるというのは、そもそも現状としてやらなければいけないことができていないということです。指標で捉えればAですが、取組み全体で見るとBということになります。数値目標で測り知れない現実の部分で、年度内に取り組まなければならない部分が若干鈍っているということを今後、統一したいと思います。

【部会長】 そうすると、指標のとり方にも関係してきます。

【委員】 こういった問題は、かなり出てくると思います。計画自体の課題設定が大き過ぎたとか、甘過ぎたとか、或いは進行管理を進めていく中で、計画そのものの課題設定の不十分さに気づくなど、いくつかの要素があり、一般的な話です。もう一つは、行政において、数値目標の設定が難しいという現実があります。とりあえず数値目標を設定しておいて、実際に進行管理をしていくと、違和感を生じることもあると思います。

それと、ステークホルダーである対市民団体などとの関係で、先ほどの要素も含めて、甘い評価はしばらく厳しい評価をすることが行政を進めるうえでより望ましいというような雰囲気があります。分野によっては、厳しい評価をせざるを得ない事業があると思われます。これは、秦野市に限らないことだと思いますが、自己評価の理由としてしっかりコメントを入れておくことが大事です。多分にこういった曖昧さは生じてしまいます。

【部会長】 そのとおりだと思います。基本的には単純明快に数値目標の達成状況による評価が良いのですが、今回は自己評価の理由として、委員のお話のようにその辺りを含んで記述しているようです。このような意見を基に、今後、数値目標の見直しなどに繋げていってもらうということでおろしいでしょうか。

他になければ、基本目標ごとに説明を受けたいと思います。

【企画課】 一基本目標1の説明—

【部会長】 御意見、御質問等はいかがでしょうか。

【委員】 N o. 10 事業（歩道の整備）について、D評価の理由は数値目標が55%であるということと、今後の対応の部分で補助金という文言があります。この補助金とは、交付金のことですか。

【企画課】 はい。交付金のことと思われますが、担当課に趣旨を確認します。

【委員】 N o. 10 事業では、交付金の内示が要望額の半分程度であったようですが、これは異常事態ということなのか、普通にあることなのか分かりません。交付金の状況によっては、今後も継続してD評価が続く可能性はあります、評価の仕方は見直してもよろしいと思います。

【委員】 こういったケースは秦野市に限らず、全国的な話であると思われます。国庫補助がらみの事業は、まず、担当課で制度的に国庫補助がどれだけ得られるかという視点で計画する傾向にあります。ただ、実際は満額付かないでの、このような評価になってしまいます。

【企画課】 担当課としては、目標値の捉え方があって、それが当初から要望額の50%しか付かないものとして目標値を設定していればこういう評価にならないわけですが、担当課の希望額に対し結果として二分の一しかつかないためにこうした評価になったのだと思います。来年度に向けて、実績値の取り方を見直す、あるいは自己評価を変えることも検討したいと思います。

【委員】 国庫補助事業では、事業の内容により交付金が付くものと付かないものとでかなりバラツキが出ます。

【財政課長】 そうですね。公園などの交付率は低く、防災など地震対策では当然高くなります。この歩道整備についても、市が総合計画で位置付けているので、国庫補助の内示が半分であっても、一般財源を投入してでも計画どおりに進めることがあります。しかし、現状の財政状況では難しいので、国庫補助の範囲で執行してほしいというのが実情です。今後総合計画などをつくる際には、内示率などを勘案して策定することも必要かと思います。

【部会長】 その時々で国の事情も違うですから、市民に説明しようと思えばできる内容だと思います。

【財政課長】 担当課としても、より多くの交付金を得るために工夫をしています。例えば、歩道設置の際には、歩道設置事業とするか通学路整備とするのかによって採択率や内示率が変わってきます。

【委員】 国庫補助の内示率が下がれば、その分ハード工事ができないわけですが、それを看板や表示などのソフト面でカバーして、市民に告知するような対策は是非検討してほしいと思います。

【部会長】 常にそういう仕組みは大事だと思います。お金がなければ、できる

範囲のことを地域の仕組みの中で行うことが必要です。

【委員】 基本目標1については、秦野市にとって持続的、政策的に進めて行かなければいけないプロジェクトだと思います。指標についても、市民ぐるみで設定することなども来年度以降は検討する必要があると思います。

【部会長】 その辺りはどうですか。

【企画課】 39ページの総括で整理します。

【部会長】 他になれば、基本目標2の説明をお願いします。

【企画課】 一基本目標2の説明一

【部会長】 御意見、御質問等はいかがでしょうか。

【委員】 先ほど、自己評価というのは難しいという話をしましたが、典型的な事業が、基本目標2のNo.30事業（いじめ・不登校対策の推進）です。数値目標は達成していますが、当局としては、なかなかA評価とはできないというのが現実だと思います。その一方で、24ページのNo.34事業（西中学校体育館等複合施設整備事業）では、自己評価の文言の意味が分かりづらいのですが、どういう意味でしょうか。

No.37の事業についても、難しく考えず評価した方がよいではないでしょうか。子ども読書活動の推進という事業ですから、子ども読書通帳の配布数が目標を達成しているので素直にA評価でよいと思います。もしB評価であるならば、コメントを工夫しないと分からぬですよね。

【企画課】 No.34事業については、整備構想そのものは平成28年度以内に策定予定でしたが、実際の策定は平成29年度にずれ込んだので、自己評価をBにしたとのことです。

【委員】 そうであれば、表現を分かりやすく工夫した方がよいと思います。

【企画課】 はい。担当課に差し戻します。

【部会長】 もう一つ指摘のあったNo.37の事業はどうでしょうか。

【企画課】 こちらも、担当課に差し戻して、自己評価の理由を工夫したいと思います。

【委員】 まだ、やるべき事業がある中で、自己評価をBにしたならば、表現を工夫する必要があると思います。

【委員】 来年度に向けての要望です。基本目標2-2の「学び育つ教育環境づくりの推進」の中で、教育の質や成果の向上には、生徒や父兄の努力もありますが、学校の先生方の取組みが記載されていません。先生方のレベルアップについて触れられるのが当然だと思うのですが、その辺りが避けられているような気がします。

秦野市の現状、全国学力一斉テストでは神奈川県内の平均点を下回っています。そういう結果を踏まえて、来年度以降、教育の現場では基本目標2の

ところに何らかの工夫が盛り込まれないと駄目だと思います。例えば、授業がわかると回答した割合ではなく、全国の公的な指標の中で成績がどうかという目標があってもよいと思います。

【企画課】 基本目標2-2の「学び育つ教育環境づくりの推進」の取組みの中で、委員からお話のありました事業の位置付けがない状況ですので、先生の質の向上であるとの部分が見えづらい状況になっていると思います。次年度に向けて、御意見を反映できる点は、指標の見直しや追加などについて担当課に相談したいと思います。

【委員】 全体会の冒頭で、市長からミライエなどの住宅の話がありましたが、秦野の未来や教育を考えたときに、幼小中一貫教育など、秦野の特徴を出したユニークな取組みがあると思います。そういうた独自の取組みを一番上にもってきて、それに合うKPIを設定できるとよいですね。

【委員】 小中学校教員の任命権や人事権などは市には権限がありません。その中で、市町村が教師の質の向上などをどのように捉えて、市民にどう伝えしていくのかは非常に難しい問題であると思います。しかし、現場では既に起こっている話だと思います。秦野の教育の在り方を考えたときに、ただ校舎をきれいにした等で市の仕事が終わりであると捉えないように、具体的にどうしたらよいか、秦野の特徴を生かした教育はどうあるべきか考えることが必要だと思います。

【企画課】 現在、教育委員会としても、地域の方に協力していただきながら、そこでの特色を生かして学校のあり方や教育のあり方を考えるコミュニティスクールの取組をしております。市としても教育のソフト部分に携われる取組みを行っていますので、そういうた指標を出せないかなどの工夫をしていきたいと思います。

【部会長】 皆さんの御意見は、全体を通して今後の大きな課題について提言されているのだと思います。秦野独自の目標について、一般的な指標で無難に済ませるのではなく、真剣に考えていくべきだと思います。

【企画課】 是非、検討させていただきます。

【部会長】 他になければ、次に基本目標3の説明をお願いいたします。

【企画課】 一基本目標3について説明一

【部会長】 御質問等があればお願いいいたします。

【委員】 29ページのNo.53事業（ひとり暮らし高齢者等の安全・安心の確保）は目標を90%達成しており、75%以上の達成だからBとしている。No.55事業（地域ぐるみで取り組む健康づくり運動の推進）でも、75%以上だからBとしているわけですが、コメントが機械的な印象を受けます。例えば、高齢者ひとり暮らしの部分などは大事な話ですので、CないしD評価

と同じように今後の対応について何らかのコメントがあるとよい。

【企画課】 数値評価と自己評価が一致していますので、概ね進んでいれば、余分なコメントは省略して、機械的なコメントとしているわけです。

次回自己評価を実施する際には、御意見を参考にさせていただきます。

【委員】 同じような感想ですが、この基本目標3の部分のコメントは少し温かみに欠ける印象があります。No.52事業（地域包括ケアの推進）は数値目標の設定が本当に難しいのではありますが、地域包括ケアの推進では地域で体制整備を作っていくことが重要だと思います。ここではそういう視点が評価に入っていないので、何となく不安になります。

【企画課】 次回に向けて、担当課に投げかけてみます。

【委員】 No.46事業（空家等対策の推進）の特定空家とはどういう定義でしょうか。

【企画課】 倒壊しそうだとか、臭いとか、衛生的な部分と構造的な部分で適正に管理されていないなどといった、ある一定基準に達した空家を特定空家と言います。

【委員】 安心安全な住宅には耐震化が結構重要だと思うのですが、そういう施策はこの中に出でこないですね。

【企画課】 市としても、住宅の耐震化を促進しています。ただ、総合計画のリーディングプロジェクトには位置付けられていないため、ここには出てきていません。

【委員】 基本目標3-2「生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進」のKPIについての話ですが、高齢者の見守りやグループホームの入居者数などは、どちらかと言えば、「安心」を測る指標であって、「生きがい」ということならば、スポーツ・レクリエーションや生涯学習の参加などといった市民活動などが挙げられると思います。その辺りは、KPIの見直しの余地があると思います。

【部会長】 ほかに御意見等がなければ、次の基本目標4の説明をお願いします。

【企画課】 一基本目標4について説明一

【部会長】 何か御質問等はありますか。

【委員】 No.75事業（産業用地と工業系未利用地への企業誘致及び企業の支援再整備への支援）の自己評価の理由で、「平成28年度中に操業した企業が2社あったことから、新たな企業誘致立地可能な土地が不足しているという課題がある中で・・・」というコメントがあります。そうすると、そもそも指標の設定がおかしいのではという疑問が残ります。

【部会長】 何か矛盾点みたいなものがありますね。

【委員】 土地の不足が本当だとすれば、もう充分企業誘致ができているということになります。

【企画課】 これは、平成32年度までの目標ということで掲げていますが、新東名高速道路秦野S A（仮称）周辺に約15ヘクタールの産業利用促進ゾーンの構想がありますので、それを踏まえた目標設定であると認識しています。

【委員】 こここの目標設定のところで、平成28年度は企業誘致条例の適用者数が3社の目標で、適用が1社だったから33%の達成になっています。中身からすると、平成28年度に2社操業しているので、自己評価をBとしたというのは分かりづらいです。指標として、操業企業数を採るのか、条例適用数を採るのか、現実に見えている姿と目標がずれていますよね。本来の目標というのは、企業誘致です。実際に条例適用を前提とした目標値の達成としないと、実質的な話ではなくなってしまいます。誘致企業数そのものを数値目標の設定としたらどうでしょうか。

【委員】 誘致に成功するのが目的で、条例の適用を受けるかどうかは関係ないと思います。

【部会長】 これは担当課に修正をお願いしてはどうですか。

【企画課】 相談してみます。

【委員】 最後のN o. 77事業（観光農業等の推進）がB評価となっているのは、N o. 66事業のからみであると思うのですが、どのような関係ですか。

【企画課】 N o. 77事業は、N o. 66事業の一部で新東名高速道路S A集周辺に限った話になります。ただ、同じ施策として扱っているので、数値目標は同じ指標を使っていて、市内全体の区画数を言っています。

【委員】 そうしますと、新東名周辺に限った区画数の設定ができないのであれば、N o. 77事業の指標は空欄の方がよいと思います。

【企画課】 エリアに限った数値目標にするか、目標をとるか、担当課に投げかけてみます。

【委員】 この観光農業の事業は新東名の開通がなくても進められる事業ですか。それとも、開通を待つ必要があるのですか。

【企画課】 当然単独で進められるわけですが、新東名ができることによって、更に効果があるということです。

【部会長】 ほかに何か御意見はありますか。

なければ、39ページの外部評価の総括に移りたいと思います。説明をお願いいたします。

【企画課】 一外部評価の総括を説明—

【部会長】 何か御意見はありますか。

【委員】 形式的な話ですが、この総括は専門部会が発言しているという書き方になっています。この報告書は秦野市が最終的に整理した形になっていますので、冒頭に「次のとおり答申を受けております」などの文言があればつながりますよね。

【企画課】 専門部会から答申を受けて、それを基に市が報告書として整理するという構図になります。

【事務局】 日程としては、来週末に部会長から部会としての報告をする予定です。答申書とするか、報告書とするかは今後検討します。

【委員】 (2) に「P D C Aの確立」という文言がありますが、冒頭、P D C Aに沿って進めていくということで宣言がされているので、省略してもよいと思います。

【企画課】 見直しを検討します。

【委員】 (5) の評価の温度差の部分ですが、そこはあって良しという部分もあるので、非常に難しいと思います。ここは省略してもよいのではないでしょうか。

【委員】 数値目標による機械的な評価ができなかった事業に対して、評価の差があったことを言っているわけですが、その基準を明確にして次年度の評価につなげるということですね。ただ、完全に温度差をなくすことはできないと思います。具体的にどこを指しているのですか。

【企画課】 前回の会議での、全般的な御意見を整理したものです。前回は資料の構成が分かりづらかったので、記載しています。数値目標では評価できない部分の取り扱い方についてです。

【委員】 それでしたら、ここ部分は、「総合評価となっていますが、より一層市民に分かりやすい評価となるよう留意する必要があります。」というような表現でよろしいかと思います。

【企画課】 見直しを検討します。

【委員】 (4) の総合戦略全体を通じて、社会経済情勢の変化を踏まえるとか、社会経済情勢に応じたニーズとか、市民の声、ニーズを吸い上げるというような表現に工夫する必要があります。社会や経済情勢の変化で市民のニーズも変わり、それから多様な市民のニーズを吸い上げるという二つのポイントがあると思います。

【部会長】 基本的には今出た御意見を基に、市民に分かりやすいように整理していただければと思います。

【企画課】 分かりました。

【部会長】 それでは、この報告書は、本日出た御意見を基に私と事務局の方でまとめさせていただいて、市長に報告するということでよろしいですか。

————全委員了承————

【部会長】 次に交付金効果検証の資料2の説明をお願いします。

【企画課】 一資料2を説明—

【部会長】 何か御意見はありますか。

【委員】 2の事業ですが、インターネットアプリがつながったことで、市全体の観光客数が増え、効果的であったと言えるのでしょうか。つまり、このプロジェクトが市全体の観光客数の増加に効果があったと言えるのでしょうか。そこが明確にならないと、自己評価の部分で「非常に効果的であった」と言うのは難しいと思います。

【部会長】 確かにそうですね。本当にどこにつながっているか分からぬですよね。

【委員】 全体のどこに影響しているかわかりませんが、この施策自体は効果があったということですね。

【委員】 事業として効果的であったというのは、今の解釈であれば大丈夫だと思います。

【部会長】 アプリのアクセス数をチェックするなど、費用対効果をしっかりと確かめる必要があります。

【委員】 自己評価でありますので、非常に効果があったか、相当程度効果があったかは、担当課が最終的に判断することによろしいかと思います。外部評価としては、有効か有効でないという2択ですから、有効であったと言えます。

【部会長】 ここで出た意見は担当課に伝えてください。

【企画課】 分かりました。

【部会長】 事務局から連絡事項があればお願ひいたします。

【事務局】 市長への報告日程及び今後の会議日程等の確認

市長への報告日程 平成29年8月18日（金） 午後1時過ぎ

第4回会議 平成29年9月29日（金） 午後2時から

第5回会議 平成29年10月27日（金） 午後2時から

【部会長】 何か質問等はございませんか。

無いようでしたら、以上をもちまして、本日の会議を閉会といたします。

— 閉 会 —